

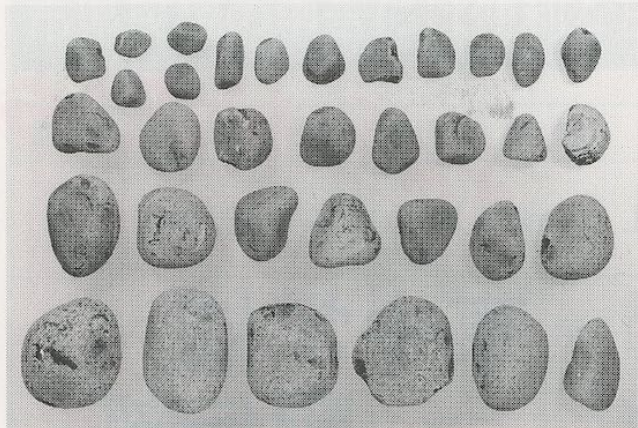
土の中からのメッセージ(4)

下呂石の話(その二)

左の写真は、太田本町の川原(湯ヶ峰から約80キロ下流)で約30分程かけて採集した下呂石の転石です。角が取れて丸くなり、大きさは3〜9センチ、これだけあれば十分石器ができます。

現在、下呂から太田までの間に多くのダムができています。

川原で拾える下呂石の多くは、一体いつ流れてきたのでしょうか。本当のことはよく分かりません。なお、下呂石が拾える最下流部は、愛知県木曾川町です。ところで、市内の遺跡で使われる下呂石がすべて川原で拾わ



太田本町採集下呂石

れたかという点、必ずしもそうではありません。牧野小山遺跡の剥片を詳しく観察すると、中には露頭近くで採集した角礫かくれきの一部が見られます。より大きな石器を作るために下呂まで出かけたのかもしれませんが。昔もこだわりの持ち主がいたようです。(前号「石錘」は「石錐」の誤り。博物館建設委員・齊藤基生)

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

(平成四年十二月分)

○考古資料(弥生土器片) 一点

(坂井忍さん/蜂屋町)

○番傘など 四点

(田口君子さん/本郷町)

○戦中の葉きょうなど 二点

(日比野享一さん/島町)

○縄ない機など 二点

(高橋正美さん/本郷町)

○井戸用ポンプなど 二点

(佐光篤さん/太田町)

○お膳籠など 七点

(佐合玄房さん/森山町)

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。資料は見せていただくだけでも結構ですので、市社会教育課(☎内線362)まで情報をお寄せください。